

## 情報教育研究会 授業研究協議記録

平成20年7月2日（水）旭町小学校

### ①授業について（授業中の子どもの様子を中心に）

#### 授業者より自評

・普段あまり活動に取り組めない児童も、授業前から意欲的な様子を見せ、見出しを変えるなどの活動ができた。ボタン1つで変更できるので、レイアウト以外にも写真の大きさや文字にこだわる子どもたちの姿が見られた。

・最後に作品を紹介する場面でもっと時間を取り、自分の工夫を相手がどうとらえているのかを深める必要があった。

#### 研究協議

●子どもたちの質問に普段はどのように対応しているのか。

→（授業者）普段は文字が入力できないという質問が多い。一人一人に答える場合もあるが、2～3人質問者がいる場合は手を止めさせて一斉に指導をしている。普段はもっと自由に学習を進めることが多いので、もっと質問が多い。

●レイアウトをすることを目標としていたが、本時では見出しや枠など、主にどのような点を大切にしていたのか。

→（授業者）第一に見出し、第二に枠で囲むこと（どこまでが1つの話題かわかるようにすること）を大切にした。

●子どもたちは見出しに凝っていたが、その点についてはどうか。

→子どもたちが自分の画面を見て熟考し、試行錯誤しながら進めている様子がわかった。

→これまでの新聞作りの経験や学習を掘り起こし、実際の新聞の見出しや写真を見て学習を進めているのがよい。

●新聞を活用した学習は非常に効果があるが、どのように新聞の機能の理解を進めたのか。

●サンプルの新聞はどのように準備したのか。写真などはどのような規準で選ばれたのか。

→（授業者）サンプルにはどの子も知っているだろうと思われる話題を選んだ。川崎宿のフォルダに他の写真も用意していたので、もう少し声をかければ写真の位置を動かすだけでなく、写真の選択も視野に入れる児童がいたかもしれない。

### ②「広める研究」について

（主に、ICT利活用・スカイメニューの扱い方・キューブキッズ2の扱い方について）

・ICT活用事例ビデオクリップ集の紹介

・ICT利活用実践集の紹介

教室……………小さな物をみんなで共有する／発表会など

パソコン室…ソフトの使い方の説明／制作途中の感想交流

#### 指導講評（井部良一指導主事）

・今年度はコンピューターの台数も増え、ネットワークがケインズ、図書館、公務用パソコンの3つに分けられる。

・旭町小学校のパソコン室の配置がよい。真ん中にパソコンがあり子どもたちも動きやすい。

- ・ どんどんスカイメニューを使いこなしてほしい。授業者の先生がスムーズに動いているのがよかった。
- ・ パソコンでの個別活動の時間に、よくできている子どもの作品を示すと子どもの自信につながる。友だちの机まで自由に動き参考にするという方法もある。
- ・ スクリーンをもっと大きくする、または子どもたちを前に来させるという方法もあった。また、導入の操作方法の説明で、スクリーンだけでなく子どもたちのパソコン何台かに映してもよかった。
- ・ とび入りのスキル学習 1 時間では、意欲を持たせることが難しい。本時はレイアウトをねらいとしているので、友だちにどう伝わるかというところまでねらうのは難しい。スキル学習を単体で行い、次のガイドブックに生かすのではなく、ガイドブックを作る過程でスキル学習を組み込んでよかった。
  - ・ 指導案の中に、総合の学習の全体的な流れが必要である。どのような学習の中でスキル学習を取り入れたかが重要である。子どもたちの実態に合わせて必要なければ、スキル学習を取り入れなくてもよい。
  - ・ 情報教育のはじめのうちはスキル学習が多くなるが、だんだんと力が身についていけば必要はなくなる。情報教育は学習の内容ではなく、学習の能力であるから、学習の中で自然と情報の能力が身に付いていくようにするとよい。
 今後、情報アドバイザーがスキルの指導に入っていくことになる。今後授業をする先生方は、まず授業の中でどのように活用していくかを考えていくことが大切であり、子どもたちがあえて手書きの新聞を選べる環境がベストである。
- ・ 学習活動すべての場面をとらえて学校・学年の情報教育の計画をたてるとよい。
- ・ 『たった 3 秒のパソコン術』（三笠書房） 今後は教員自身が仕事量、時間を短縮するスキルを身につけることが大切である。
- ・ 『わたしたちとじょうほう』学研公式サイト ワークシートやパワーポイントのダウンロードできる。
- ・ (柿生小) 情報教育…子どもの情報活用能力の育成  
 (下小田中小) ICT活用…教師が教科目標を達成するための ICT 活用  
 どちらも、各教科の授業の中での情報活用能力の育成につながる。授業の質が高まることや、授業時間の使い方がかわるということで、今は教師の ICT 活用をめざすことが多い。基本は教員の ICT 活用指導力である。
- ・ ICT 利活用実践集について。公開授業だけでなく、実践集で広めることが大切。情報の能力はすべての教科のベースになっていくので、一般の先生の ICT 活用が必要になってくる。
- ・ 北方小学校の実践の紹介。校内研究を 1 つの教科でつきつめるのではなく、ICT 活用や板書など広く研究し、若い先生の指導力をつけている。
- ・ 研究について
  - ①「ひろめる研究」情報教育入門／普通の先生が ICT 活用
  - ②「深める研究」情報活用能力育成／メディアリテラシー
 「ひろめる」が落ち着いたら、情報の質にこだわるなど「深める」方向に向かっていくのではないか。

文責 池田ふみ子 (住吉小)